

C-23 マイクロモーションスタディを主とした
被服構成の動作研究 (第1報)
——スカートのカットから縫製まで——

精華女短大 磯部 誠介
○藤田喜生子

1. 従来の被服構成は熟練により安定した技術によって疲労と失敗を少なくしてきたので、未熟者は必要以上の余裕時間を要するものである。マイクロモーションスタディを主として動作研究を行ない方法改善を進めた。

2. 時間の要素をいれて人間工学的に行ない、メモーションカメラ、ビデオコーダおよびストップウォッチによる時間測定を併用し、作業分析を試みた。道具配置の良好な場合と日常直感的に行なわれ易い不良の場合を対照とした。作業はウール地W幅70cm, 婦人用スカートのカットから縫製までとし、道具は32種使用した。

3. 全作業を区分すれば縫製72%, 切戻14.6%, 仕上げ10.7%, カット2.5%であった。

作業改善は人間対機械関係を人間工学的に研究することと、手順、使用道具および方法を検討する作業方法研究によって行われるものである。本実験によってメモーションスタディが極めて有効であることを確認した。更に細部の解析にはスローモーション撮影が必要且つ便利と思う。又この作業記録はビデオコーダ等により音を入れることによって作業時間分析を更に明確に解析しうる。この作業は不安定作業であるため作業者の心理および健康状態で多少変動は当然考えられるが作業区分により改善の重点はかなりはっきりしているようである。